



# 遅刻指導と生徒指導の基本的考え

広島工業大学高等学校  
生徒指導部長 田中正信

これを読まれている皆さんで、『生まれてこのかた遅刻をしたことがない』という人は何人くらいいるのでしょうか。

私の勝手な想像ですが、遅刻をしたことがないという人は、いないと思います。

## 遅刻はいけないこと？

社会においては、遅刻をよくするという人はいません。そう、クビです。しかし、高校では『あの生徒はよく遅刻をするから退学だ』というのは聞いた事はありません。生徒もそこにあぐらかいていないわけではないでしょうが、なかなか遅刻は減りません。本校では、遅刻ゼロを目指していますが、ゼロの日は年に数日あるだけ。それじゃ遅刻指導はやめようか。エネルギーもいることだし…という訳にもいきません。いえ、そうはしたくないのです。生徒と関われるチャンスをせっかくもらったのですから。そう、遅刻に限らず指導するというのは、生徒を変えることができるチャンスなのです。



通学風景(八幡川沿いの道を通って南門へ)

## 何のために指導する？

私は、子どもたち(生徒ではなく子どもと書かせていただきます)の5年後、10年後などの将来の幸福を願っています。おそらく、皆さんもそう願っていると思います。

遅刻をする子どもは何かの理由があるから遅れて来るのです。それは、学校に馴染めていない、学校で嫌な事があるとか、友人関係かもしれません。親子喧嘩があったからかもしれません。あるいは、遅くまでゲームをしたり、テレビを見たりして生活習慣が乱れているからかもしれません。確かに、体調を崩して病院へ行ったために遅刻をしたという子どもも少なくはありませんが、以前はそうではない遅刻理由が圧倒的でした。

本校では、遅刻をすると、まず生徒指導室に行き、用紙(遅刻状況届け)に遅刻理由などを書き、それを持って教室へ入るということにしています。遅刻理由に『寝坊』と書いた子どもで、その日にたまたま寝坊したという子どもには『明日からは大丈夫だね』と声を掛けます。しかし、同じ寝坊でも、『寝坊？昨日寝るのが遅かったの？』と声を掛けたときに、『1時に寝ました』とか『2時まで起きていました』となれば『なぜその時間まで起きているのか』という指導をしなければ、その子はこ

れからも遅刻をすることになるのです。遅刻の常習者は、その癖を持ったまま社会に出ると大変困ることになります。思い出せば、我々も『遅刻したらいけんよ』『早く家を出なさいよ』というように教えられました。『5分前行動』ということもよく言われました。



通学風景(自転車通学者が正門から)

## 本校での遅刻指導

本校では、遅刻回数が学期毎に3回・5回・7回・10回になった時点で遅刻特別指導を実施します。いずれも通常より20分早めに登校することを約1週間行いますが、一人でも多くの教員が関わるようにと、指導教員は各回で変えています。

- 3回 — 学年の生徒指導部教員
- 5回 — 学年主任
- 7回 — 生徒指導部長
- 10回 — 校長(保護者同伴)

当然ですが、基本的には担任はどの回数の指導にも関わります。

遅刻指導では、美化活動などをさせるという学校も少なくはありませんが、本校では『生活のリズムを作らせるとともに、早めの行動(登校)は心の余裕も生まれる』という考えで、罰を与え

るような指導は行っていません。子どもたちの心に教員の想いが伝われば、生活習慣は改善できると思っているからです。勿論、このことは遅刻に限らず全ての指導に対していえることです。学校は学びの場、教育を受ける場所なので、何か問題があったとしても『人間は罰で変えるものではない』と私は考えます。教員が、いや、大人が本気で子どもたちの心に訴えたならば、必ず子どもたちの心に響き、心を動かすはず。時間はかかりますし労力もいることですが、それが教育者の進むべき道のような気がします。

話が少し逸れましたが、遅刻指導中は日課表を書かせます。これを見る事で、何がいけなくて、どう改善すれば遅刻が減る(なくなる)かが見えてきます。私は、新入生のオリエンテーションで5点固定を強調します。進学説明などでよく使われる3点固定は、『起きる・寝る・勉強を始める』の各時間を固定しなさいというものですが、5点固定は、生活習慣を改善するためのものです。『起きる・寝る・朝食・昼食・夕食』の各時間を固定することで、リズムある一日を過ごすことができます。だから生活習慣も改善できるのです。その結果、遅刻もなくなっていきます。ここでの『朝食・昼食・夕食』とは、それぞれの食事を開始する時間のことです。

## 遅刻者が減った?!

生徒指導部長になって3年目の今年度は、『遅刻者が減った』と実感しています。教員室で『今日は多かったねえ』と話しても2桁になっていないこと



SHR(ショートホームルーム)開始の8:40の様子(誰もいません)

が殆どです。

また、寝坊の遅刻より通院や体調不良(担任には遅れるという連絡を入れている)という遅刻理由が多くを占めるようになってきました。そのため、急病でないなら通院は放課後に、体調を崩さない為にはどうすればよいか、ということをお話あるごとに訴えかけています。

下の表1・2を見てください。徐々にですが遅刻が減っています。実は、H16年度までは雨天時などに渋滞で交通機関が遅れたというのは『公認』として、遅刻扱いにしていませんでした。しかしながら、そうすることで子どもたちに悪しき習慣を身につけさ

せてしまっただけで、学校は教育機関ではなくなくなってしまいます。たとえ遅刻にカウントされ指導を受けることになっても、子どもたちが『明日は天気が良くないから、いつもより20分早めに家を出よう』とか『1本早いバスに乗ろう』など、遅れないためにどうす

れば良いかを考え、それを実行できるようになって欲しいと思い、昨年度から特にひどい状況を除いて『公認』とはしないこととしました。

ところが、それでも遅刻は減っていき、今年度の1学期はやっと、いえ、とうとう10人を切りました。しかし、まだ平均すれば毎日10人弱が遅れています。中には、2学期が始まって間もないのに、もう遅刻指導を受けている子どもがいます。当然、遅刻は家庭での問題などが大きく影響します。しかし、子どもたちの将来を考え、その将来が幸福であることを願い、時間や労力を惜しまず、これからも心に響く指導を実践していきたいと思っています。

表1. 年間の遅刻者数の比較

| 年度           | H15   | H16   | H17   |
|--------------|-------|-------|-------|
| 1年間の遅刻者数(人)  | 3,429 | 3,338 | 2,934 |
| 1日の平均遅刻者数(人) | 17    | 16.8  | 14.4  |

表2. 1学期の遅刻者数の比較

| 年度           | H15  | H16  | H17  | 今年度 |
|--------------|------|------|------|-----|
| 1学期の遅刻者数(人)  | 892  | 860  | 783  | 648 |
| 1日の平均遅刻者数(人) | 12.4 | 12.5 | 11.5 | 9.5 |